

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2009年9月中旬から10月下旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月中旬に高位水準へと増加し、9月下旬も高位水準を維持する。10月から減少を始め、10月上旬には中位水準、10月中旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 9月中旬～10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。10月中旬～10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、釧路～襟裳岬沖が漁場となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月中旬は低位水準ながらも来遊がある。9月下旬には中位水準へと増加し、10月中旬まで中位水準が持続する。10月下旬以降は、ゆるやかに減少する。
- (2) 漁場: 9月中旬には八戸～久慈沖に漁場が形成される。9月下旬は三陸北部が主漁場となり、10月上旬には漁場が三陸南部まで広がり、10月上旬～下旬は三陸北部～南部にかけての広範囲に漁場が形成される。

※常磐海域の予報については、次回(9月18日発表)から行います。

2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位水準	中位減少	低位減少	低位水準
	漁場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位水準	中位水準	中位減少
	漁場	八戸～久慈沖	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年をやや下回り、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、23~24 日頃、一時的に来遊量は多かったが、その後やや減少。30 日夜から再び増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石~霧多布沖、釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南南東~霧多布南の 15~30 海里付近(表面水温 13~17℃)。23~26 日夜は落石沖、30~31 日夜は落石沖~霧多布沖が漁場となる。大型船数隻と小型船 10~30 隻程度操業。大型船で規定量の 52トン漁獲する船もあった。小型船は数トン~20トン程度漁獲。

釧路南東 25 海里付近(表面水温 15℃)。24 日夜に小型船が 10 隻程度操業。1 回 1.3トン程度漁獲。

襟裳岬東 30 海里付近(表面水温 15~16℃)では、25~26 日夜に小型船 1~15 隻程度操業。数トン漁獲。

(3) 魚体

30~32cm モードの大型魚と、26~28cm モードの中型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、2~6 割程度。体重 170~180g 台が主体。

※サンマ中短期予報の作成方法について

サンマ中短期予報は、数量化 I 類を使用した予測モデルの結果を利用しています。この予測モデルは、「予測を行う直前のサンマの来遊状況(今回の場合、8月下旬の海区別資源量指数)」と「予測海域の予測旬における表面水温の占有率(予測水温分布図から計算)」をパラメータとして使用しています。予測水温分布図は、漁業情報サービスセンターが作成した海況図を使い、統計モデルを使用して予測した結果です。